

令和 8 年度

「運営に関する計画」



大阪市立高津中学校

令和 8 年 4 月

大阪市立高津中学校 令和8年度 運営に関する計画・自己評価（総括シート）

1 学校運営の中期目標

現状と課題

令和4年度～令和7年度、本校教育の大きな柱として掲げている「生徒の進路保障を重点目標とし、生徒・保護者・地域からの信頼度を高める」の実現に向け、教職員一丸となって教育活動に取り組むことができた。その結果、学力・体力の向上、道徳心・社会性の育成などにおいて一定の成果が見られた。

子どもが安心して生活できるよう学級活動、道徳の時間、そして総合的読解力の時間などを充実させ、教育相談活動を毎学期実施することで、問題行動、生徒の心のSOSを早期に発見し迅速に解決することができている。その結果、校内秩序を保ち、落ち着いた環境で教育活動に取り組むことができた。しかし、令和4年度以降は不登校になる生徒が増加しており、令和7年度にほっとスペースを立ちあげたとはいえ、今後も家庭との連携を強化し、生徒一人ひとりの個に応じた支援を行っていくことが喫緊の課題である。また、地域防災に興味・関心が高いとは言えない生徒が一定数存在することから、今後も地域と連携して、防災教育を充実させるなどして、地域防災に貢献できる生徒を育てていくことが、課題であるといえる。

学力向上については、国語、数学、英語について習熟度別少人数授業やティーム・ティーチングなど個に応じた指導を充実させるとともに、生徒1人1台端末を効果的に活用した授業を毎日の朝学習や授業で実施することで、生徒アンケートにおいて「授業はわかりやすい」と肯定的に回答する生徒の割合の高さにつながった。また、全国学力・学習状況調査およびGTEC（英語4技能テスト）の結果についても、全国（大阪市）平均を大きく上回り、進路保障に向けたきめ細やかな学習指導の成果が出ている。一方、生徒の学習状況については、生徒アンケートにおいて「授業を受けて、もっと学習しようと思う」と肯定的に回答する生徒が7割程度にとどまり、「学習に関する興味・関心・意欲」に課題があるなど、今後、取り組んでいかなければならない点が明確となっている。また、全国体力・運動能力等調査においては全国平均を下回る種目があり、今後の体力向上に向けた取り組み内容を検討する必要がある。

中期目標**【安全・安心な教育の推進】**

- 年度末の校内調査において、不登校生徒の在籍比率を前年度より減少させる。
- 年度末の校内調査において、前年度不登校生徒の改善割合を増加させる。
- 年度末の校内調査において、生徒1000人当たりに対する暴力行為発生件数を前年度以下にする。
- 「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を90%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 中学生チャレンジテストにおける、国語のボリュームゾーンにあたる層の変化率を4年間で5ポイント向上させる。
*中1時点でのボリュームゾーンにあたる層の中3時点での変化率
- 中学生チャレンジテストにおける、数学のボリュームゾーンにあたる層の変化率を4年間で5ポイント向上させる。
*中1時点でのボリュームゾーンにあたる層の中3時点での変化率
- 年度目標アンケートにおける「総合的読解カリキュラムに取り組むことで、資料や文章などを読むときに、どこが大事なところかを考えながら読んだり、自分の考えを発表するときに、考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表したりしている」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を60%以上にする。
- 大阪市英語力調査におけるCEFR A1レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合（4技能）を80%以上にする。
- 全国体力・運動能力、運動習慣等調査における体力合計点の対全国比を男女ともに4年間で2ポイント向上させる。

【学びを支える教育環境の充実】

- 年度目標アンケートにおける「授業で学習者用端末をどの程度使用しましたか。」に対して、週3回以上と回答する生徒の割合を85%以上にする。
- 教員の働き方改革に関する目標を、「学校園における働き方改革アクションプラン【2026-2029】に基づき、下に例示している項目を参考に設定する
→時間外勤務時間について、月100時間以上実施する教員をゼロにする。

2 中期目標の達成に向けた年度目標

【安全・安心な教育の推進】

学校の年度目標

- 年度末の校内調査において、不登校生徒の在籍比率を前年度より減少させる。
- 年度末の校内調査において、前年度不登校生徒の改善割合を増加させる。
- 年度末の校内調査において、生徒1000人当たりに対する暴力行為発生件数を前年度以下にする。
- 「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を80%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

学校の年度目標

- 中学生チャレンジテストにおける、国語のボリュームゾーンにあたる層の変化率を前年度より向上させる。
*中1時点でのボリュームゾーンにあたる層の中3時点での変化率
- 中学生チャレンジテストにおける、数学のボリュームゾーンにあたる層の変化率を前年度より向上させる。
*中1時点でのボリュームゾーンにあたる層の中3時点での変化率
- 年度目標アンケートにおける「総合的読解カリキュラムに取り組むことで、資料や文章などを読むときに、どこが大事なところかを考えながら読んだり、自分の考えを発表するときに、考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表したりしている」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を50%以上にする。
- 大阪市英語力調査におけるCEFR A1レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合（4技能）を前年度以上にする。
- 全国体力・運動能力、運動習慣等調査における体力合計点の対全国比を男女ともに前年度より向上させる。

【学びを支える教育環境の充実】

学校の年度目標

- 年度目標アンケートにおける「授業で学習者用端末をどの程度使用しましたか。」に対して、週3回以上と回答する生徒の割合を80%以上にする。
- 教員の働き方改革に関する目標を、「学校園における働き方改革アクションプラン【2026-2029】に基づき、下に例示している項目を参考に設定する
→時間外勤務時間について、月100時間以上実施する教員をゼロにする。

3 令和7年度の自己評価結果の総括

(令和7年度)

中期目標の最終年を迎え、中期目標の達成に向けた年度目標 21 項目の内、達成できた項目は前年度を下回る 7 項目 (29%) であった。一方、達成できなかった項目は 14 項目 (71%) であり、達成できていない項目の課題解消に向けて年度目標や取組内容を再検討するとともに、教職員の指導力向上と環境整備に努めたい。

【安全・安心な教育の推進】について、生徒アンケートで「規則正しい生活を心がけている」と肯定的に回答した生徒が 88.7% (年度目標は 83.7%) おり、校内で継続して取り組んでいる項目では成果が見られた。

いじめの防止・対応に関しては、毎月実施している「学校生活アンケート」、生徒 1 人 1 台端末の積極的な活用 (令和 8 年 1 月から原則持ち帰り)、そして校内の見守りを強化することによって、いじめにつながる事案を早期発見し解決することができた。生徒アンケートで「いじめは、どんな理由があってもいけないと思う」と最も肯定的に回答した生徒が 77.1% (年度目標は 90%) に留まり、目標を達成することはできなかった。しかし、上記の質問に肯定的な回答をした生徒は 96.9% の生徒が存在していることは成果である。

不登校の対応に関しては、各学期の初めに行う「教育相談 (カウンセリング)」や、学習者用端末を使用した「心の天気」「教職員への相談機能」を導入することにより、生徒の日々の様子を的確に捉えて教職員間で共有するようにした。その結果不登校生徒の比率を前年度より減少させることができた。また、校内不登校支援教室 (ほっとスペース) の開設も不登校生徒の居場所として機能したことも大きな要因の一つである。そして、引き続きこども相談センター、大阪市子どもサポートネット等の関係諸機関との連携を密に行うことで、不登校傾向にある生徒の居場所の確保を積極的に進めてきた。その結果、前年度不登校生徒の改善の割合を、昨年より 2 ポイント上昇できたことは成果である (令和 5 年度は 16.1%、令和 6 年度は 25.7%)。今後も家庭との連携を強化し、生徒一人ひとりに応じた丁寧な対応に努めたい。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】の学力面では、「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」と最も肯定的に回答した生徒が前年度より減少し、48.6% であった。各教科において「主体的・対話的で深い学び」を実現するために、グループ学習やペア学習を行った成果が学校全体で表れてはいるものの、今後発問の内容も工夫したい。また、「授業の内容はよくわかる」と肯定的に回答した生徒は平成 29 年度からすべての年度で 85% 以上あり、今年度も 87.1% と高い値であった。

これらの成果は学力調査等にもあらわれており、中学生チャレンジテストでは 5 教科すべてが大阪府平均を上回った。また、全国学力・学習状況調査も国語、数学ともにすべての観点で全国平均正答率を上回り、無解答率についても全国平均を大きく下回っていた。さらに、大阪市英語力調査における C E F R A 1 レベル相当以上の英語力を有する中学 3 年生の割合 (4 技能) は 79.2% (年度目標は 83%) であった。これは、国語・数学・英語において習熟度別少人数授業やティーム・ティーチングなどの個に応じた指導を充実させ、つまずきの部分を解消することで学習に対する不安を取り除けたことに加え、全教員を対象にした相互参観・研究協議を通して、授業内容の改善や教材の工夫に取り組んだ成果と考える。

体力面では、生徒アンケートにおいて「運動 (体を動かす遊びを含む) やスポーツをすることは好き」と最も肯定的に回答した生徒が 49.7% と大阪市の平均と同等の数値を達成している。一方、全国体力・運動能力、運動習慣等調査における握力や 50m 走、ハンドボールのスコアは全国平均を下回っており、筋力をつけるとともに柔軟性を高めることに課題があることがわかつ

た。

今後も中学生チャレンジテストや大阪市英語力調査（GTEC）、全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果を分析し、生徒の学習達成度や体力・運動能力の状況を把握したうえで、基礎学力の定着・運動能力の向上を図るよう授業の改善に努めたい。

【学びを支える教育環境の充実】については、各教室に高輝度プロジェクターやケーブル等の ICT 環境を整備することで、ICT 機器月平均活用率が 8 割以上の値を示す状態が定着してきている。また、授業では各教科の特質に合わせて動画・コンテンツなどのデジタル教材を効果的に活用することで、わかりやすい授業につながった。1 人 1 台端末の原則持ち帰りによって、学習動画コンテンツ（スタディサプリ）を積極的に活用し授業改善を進めるとともに、「個別最適化された学び」を実現できるよう工夫したい。

教職員の長時間勤務の解消に向けては、「欠席・遅刻等連絡アプリ（ミマモルメ）」や「採点支援システム」を導入することにより、教員の業務を効率化することができた。とりわけ、「採点支援システム」を活用することで、教員の採点時間を大幅に短縮できるとともに、各設問の正答率を分析して授業改善に役立てることができている。また、会議のペーパーレス化と事前に資料を共有することで会議にかかる時間も大幅に短縮することにつながった。

本校独自の目標である【『人を大切にする教育』を推進するため、『チーム高津』として生徒・保護者・地域から信頼される質の高い教職員集団を確立する】については、これまでも取組内容に関する指標を十分に検討し、教職員が情報を共有しながら教職員・各分掌・各委員会・各学年など様々な場面で学校全体として教育活動に取り組んできた。その取組が、落ち着いた教育環境につながっていると考える。生徒と向き合う時間の確保については、生徒アンケートにおいて「先生方は、生徒一人ひとりを大切にし、積極的にかかわってくれる」と回答した生徒が 87.6%、「先生方は自分の相談に乗ってくれる」と回答した生徒が 89.6%となり、85%の中期目標を上回ることができた。今後も教育相談を定期的の実施し、生徒との信頼関係を深めるとともに、問題行動等を早期に発見し、迅速に解決できるよう取り組んでいきたい。

健康・環境整備面では、保健・美化委員会の日々の活動を通して、自分自身の健康面に関する意識やごみの分別・清掃活動等美化に対する意識が非常に高い。生徒アンケートからは、「清掃時、積極的に活動した」「落書きをしたことがない」「ゴミはきちんとゴミ箱に捨てている」と回答した生徒が目標の 80%を上回り、「スリッパで廊下に出ない」「教室にごみが落ちていたら拾う」の項目に関しても、今年度は目標に達した。

次年度からは、新しい教育振興基本計画のもと、今日的な教育課題に向けて、教職員の指導力向上を図るとともに、学級定数見直しにともなう教室不足の解消を含め、さらなる教育環境の整備に努めてまいる。

大阪市立高津中学校 令和8年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【安全・安心な教育の推進】 学校の年度目標 ○年度末の校内調査において、不登校生徒の在籍比率を前年度より減少させる。 ○年度末の校内調査において、前年度不登校生徒の改善割合を増加させる。 ○年度末の校内調査において、生徒1000人当たりに対する暴力行為発生件数を前年度以下にする。 ○「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を80%以上にする。	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】 生活指導部・特別支援教育委員会・事務部 — いじめ、不登校、児童虐待等への対応 — ・相談活動を充実させる。 ・体罰防止を徹底する。 ・いじめ等を早期発見し、迅速に課題解決を行う。 ・心の天気や一人一台端末の相談機能を活用し、生徒の日々の様子を観察する。 ・生徒の学びの環境整備を行う。 ・ヤングケアラーやネグレクトを含む、児童虐待への地域・関係諸機関等と連携した対応 ・ほっとスペースの環境を整え、通級生徒にとって通いやすい場所にする。 指標 ・各学期に1回以上教育相談や日常の教育相談活動から、生徒を理解する。 (生活指導部) ・いじめの早期発見に努め学年と生活指導部が連携し、課題解決する体制を構築する。 (生活指導部) ・被害調査やいじめアンケート、月1回の学校生活アンケート、また、毎日の心の天気を実施し、いじめ等の早期発見や生徒の日々の様子を観察する。(生活指導部) ・生徒理解を深めるため毎月の生徒情報交換を実施する。 (生活指導部・特別支援委員会) ・児童虐待への対応を地域や関係諸機関と連携し、ケース会議などを開き、情報共有や報告ができるようにする。(生活指導部) ・ほっとスペースに関わるサポーター、生活指導支援員との連携を密にし、通級生徒の情報交換を学期に1回行う。(生活指導部) ・生徒が安心して学校に来て学べるよう、校内だけでなく各教育関係機関との連携を密にし、あらゆるケースに対応できるよう情報収集を行いながら学校教育の環境整備を行う (事務部)	
取組内容②【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】 生活指導部 — 問題行動への対応 — ・秩序の保たれた授業の維持と基本的生活習慣を徹底する。 指標 ・毎日登下校指導を徹底し、基本的生活習慣の維持向上を図る。 ・毎朝のあいさつ運動や月1回の新聞発行など、生徒会活動を活発に行い、自律した行動の定着を促す。 ・月1回程度の風紀点検を実施し、相互確認によって規範意識を高める。 ・授業の始まりと終わりのあいさつを徹底する。	
取組内容③【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】 生活指導部・健康教育部・管理作業部 — 安全教育の推進 — ・校内及び登下校の安全を確保し、あらゆる事故を未然防止する。 指標 ・生徒の安全と快適に学校で過ごせる教育環境の充実に向けて、月1回の施設設備の安全点検を行う。事前に補修、修繕を実施し、必要に応じて各部所と連携を図り改善を行う。(管理作業部) ・熱中症対策講習を1学期に実施し、安全に配慮する。(生活指導部)	

・全校集会や学年集会等で、安全安心に過ごせるように、共通理解を図る。 (生活指導部) ・体育や部活動について、年間計画や練習計画を立て、適切な指導をする。 (生活指導部) ・非常災害時において、生徒を保護者に引き渡す際の手続きを整備し、災害時におけるマニュアルを確立させる。(健康教育部)	
取組内容④【基本的な方向2 豊かな心の育成】 特別支援委員会 — インクルーシブ教育の推進 — ・特別支援学級・通級指導教室の取り組みをコーディネートし、円滑に運営する。	
指標 ・必要に応じて、特別支援教育推進委員会を行い、共通認識を持って、学習・生活指導を行う。 ・障がいに応じた対応を、共通認識する。 ・教育活動支援員との情報交換を密に行い、生徒の実態を的確に把握する。 ・連絡帳を用いて、家庭との連絡をとり、保護者との情報交換を密に行う。 ・個別の教育支援計画をつくり、計画に沿って生徒の発達に応じたカリキュラムを組み、個々に適した通級指導を行う。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
取組内容①【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】 生活指導部・特別支援委員会・事務部 取組内容②【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】 生活指導部 取組内容③【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】 生活指導部・管理作業部・健康教育部 取組内容④【基本的な方向2 豊かな心の育成】 特別支援委員会	
次年度への改善点	
取組内容①【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】 生活指導部・特別支援委員会・事務部 取組内容②【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】 生活指導部 取組内容③【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】 生活指導部・管理作業部・健康教育部 取組内容④【基本的な方向2 豊かな心の育成】 特別支援委員会	

大阪市立高津中学校 令和8年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【未来を切り拓く学力・体力の向上】 学校の年度目標 ○中学生チャレンジテストにおける、国語のボリュームゾーンにあたる層の変化率を4年間で向上させる。 ＊中1時点でのボリュームゾーンにあたる層の中3時点での変化率 ○中学生チャレンジテストにおける、数学のボリュームゾーンにあたる層の変化率を4年間で向上させる。 ＊中1時点でのボリュームゾーンにあたる層の中3時点での変化率 ○年度目標アンケートにおける「総合的読解カリキュラムに取り組むことで、資料や文章などを読むときに、どこが大事なところかを考えながら読んだり、自分の考えを発表するときに、考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表したりしている」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を50%以上にする。 ○大阪市英語力調査におけるCEFR A1レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合（4技能）を前年度以上にする。 ○全国体力・運動能力、運動習慣等調査における体力合計点の対全国比を男女ともに4年間で向上させる。	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】教務部 — 思考力・判断力・表現力等の育成 — ・授業内容を充実（わかる授業）させ、生徒に授業の重要性を啓発する。 指標 ・国語、数学、英語において、年間を通じて計画的に習熟度授業を実施する。 ・全教員対象に、年に1度、相互参観を行い、授業力の向上をめざす。 ・C-NET を利用した授業を前期に3年、中期に2年、後期に1年を対象に週に1回全クラスで実践し、英語力のアップを図る。 ・各教科において、ICT 機器を使った教材など、生徒が興味関心を抱くような授業内容や教材作りをめざす。 ・教科時数調整制度を試行実施し、柔軟なカリキュラム編成の方途を確立する。	
取組内容②【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】 教務部・総合的読解力委員会 — 「主体的・対話的で深い学び」の推進 — ・学力補充の在り方を点検し、新たな取り組みを進める。 指標 ・長期休業中に、学年ごとに、国語、数学、英語は5時間以上、その他の教科においても、生徒の状況に応じて補充授業を行う。（教務部） ・校内アンケートにおける「校内研修は充実していたかと思うか」の項目について、肯定的な回答をする教職員の割合を7割以上にする。（教務部） ・情報を正しく読み取り、考えを形成し表現する総合的読解力を育成していくために言語活動が充実した授業を行う。（総合的読解力委員会）	
取組内容③【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】 事務部 — 言語活動・理数教育の充実 — ・予算の有効活用を行う。 指標 ・各予算が事業目的に沿って有効活用できるよう、共同学校事務室等を通じて得た知識等を活かし、学校経営に不可欠な環境整備を行うとともに、生徒が家庭学習・補充学習において、さらに学習意欲が向上する教材を教職員の事務負担を最小化するなかで作成できるよう予算の有効活用等を行う。	
取組内容④【基本的な方向5 健やかな体の育成】 生活指導部・健康教育部 — 健康・体力の充実 — ・生徒一人一人の状況を把握しながら学校における体力向上に向けた取り組みを行う。 ・食に関する指導の全体計画の策定および、その検証による食育の推進を行う。	

指標 ・生徒が規則正しい生活習慣を身に付くように、日常生活から指導し、健康の維持向上を図る。(生活指導部) ・体育の授業や部活動などを利用し、運動をする機会を増やす。(生活指導部) ・健康に関する指導や食育などを通じて、生徒に規則正しい生活習慣が身につくことを企図する。(健康教育部)	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
取組内容①【基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上 】 教務部 取組内容②【基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上 】 教務部・総合的読解力委員会 取組内容③【基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上 】 事務部 取組内容④【基本的な方向 5 健やかな体の育成 】 生活指導部・健康教育部	
次年度への改善点	
取組内容①【基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上 】 教務部 取組内容②【基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上 】 教務部・総合的読解力委員会 取組内容③【基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上 】 事務部 取組内容④【基本的な方向 5 健やかな体の育成 】 生活指導部・健康教育部	

大阪市立高津中学校 令和8年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成 状況
【学びを支える教育環境の充実】 学校の年度目標 ○年度目標アンケートにおける「授業で学習者用端末をどの程度使用しましたか。」に 対して、週3回以上と回答する生徒の割合を80%以上にする。 ○教員の働き方改革に関する目標を、「学校園における働き方改革アクションプラン 【2026－2029】 に基づき、下に例示している項目を参考に設定する →時間外勤務時間について、月100時間以上実施する教員をゼロにする。	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向 6 教育D X（デジタルトランスフォーメーション）の推進】 — I C Tを活用した教育の推進 — 情報教育委員会 指標 ・心の天気を実施することで自己の気持ちを客観的にみる力を育むとともに生徒とのコミュニケーションをとり、生徒の心の状況を把握する。 ・毎日1回は学習者用端末を用いた授業を実施する。 ・宿題の配信などで家庭学習の充実を図る。	
取組内容②【基本的な方向 7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】事務部・管理職 働き方改革の推進 ・職員会議時に教職員の「大阪市職員」としての基礎的なこと（勤怠関係）などのミニ研修を行い、資質向上と事務負担軽減を行う。 ・「働き方改革アクションプラン」に基づき、教職員の負担軽減に努める。また、外部の人材を積極的に活用し教職員の業務の一部を担ってもらう。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
取組内容①【基本的な方向 6 教育D X（デジタルトランスフォーメーション）の推進】 情報教育委員会 取組内容②【基本的な方向 7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】事務部・管理職	
次年度への改善点	
取組内容①【基本的な方向 6 教育D X（デジタルトランスフォーメーション）の推進】 情報教育委員会 取組内容②【基本的な方向 7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】事務部・管理職	

